

日本語アクセントの型の計量学的研究

研究代表者：栗林 均（日本大学・文理学部・助教授 ）

交付金額 ： 1,700 千円

代表者連絡先：〒156 世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学・文理学部

Tel. 03-3329-1151 Fax. 03-3303-9899

E-mail : hkuri@chs.nihon-u.ac.jp

1. 共通語のアクセントの型

日本語のアクセントは、声の高さの違いによって実現される。語の中には高く発音される部分と低く発音される部分があり、これは性別や年齢差、個人差を越えた「社会的なきまり」として確立している。

語のなかで「高」および「低」といった声の高さを担う単位は「拍」とよばれるが、これは「かな」と極めてよく符合している。唯一「ャ」「ュ」「ョ」等、小さいかなはそれに先行するかなと2文字(「キヤ」「キュ」「キョ」等)で1拍に相当するが、これを除けば、撥音(ン)、促音(ッ)、長音(ー)もふくめて、「拍」はかな1文字と合致する。そして、アクセントはそれぞれの拍を発音する際の声の高低によって実現される。

要するに、単語は「かな」に相当する拍から構成されており、それぞれの拍は「高」あるいは「低」のいずれかの特徴を担っている。単語の中のそれぞれの拍に割り当てられている「高」と「低」の配置がすなわち、その単語のアクセントにほかならない。

拍に割り当てられる「高」と「低」は、単語の中で無秩序に配置されているわけではなく、配列のしかたには一定のきまり(制約)が認められる。たとえば共通語の3拍からなる語をみると、どんな語も「低高高」「高低低」「低高低」の3つの型のいずれかに該当し、これ以外の「高高高」や「高低高」, 「低低高」といった型は現れることがない。

単語におけるこうしたアクセントの型は、助詞や助動詞といった付属語のついた「文節」にもそのまま当てはまる。表1は、三省堂の大型国語辞典『大辞林』の「凡例」に示されている図を簡略化したものであるが、共通語においてそれぞれの拍数の語に1拍の助詞(「が」「の」「に」「を」等)がついた場合に、どのような「高」と「低」の配置が現れるかを網羅的に示したものである。白丸は、1拍の助詞を、黒丸と二重丸は単語の中の1拍を表す。このうち、二重丸は「高」の次に「低」が現れる位置、つまり「高から低への移り目」を表したもので、アクセントの「滝」と呼ばれる。

表1には、1拍語から6拍語までに現れるアクセントの型が余すところ無く列挙されているが、アクセントの型はさらに縦の欄で類別されている。それは、アクセントの「滝」の有無、および「滝」の現れる位置にもとづく分類である。

共通語において、アクセントの「滝」は原則とし

て1語(および1文節)の中で、まったく存在しないか(ゼロ)または1つだけ存在するかのいずれかである。表1では、「滝」が存在しない場合を数字の「0」(ゼロ)で表し、「滝」が存在する場合にはそれが語頭から数えて何拍目に存在するかが数字「1~6」で示されている。

- 0 → 「滝」なし。
- 1 → 1拍目に「滝」がある。
- 2 → 2拍目に「滝」がある。
- 3 → 3拍目に「滝」がある。
- ・・・以下同様

このようにアクセントの型を数字で表すやり方は、計算機を利用してアクセントの統計・計量分析を行う上で極めて有利である。数字を含む文字列の入力、検索、編集、計算、統計は計算機のもっとも得意とする分野の作業だからである。ここでは、『大辞林』の見出し語のアクセント表記を基本資料として、計算機を用いて現代日本語のアクセントの型の分布を数量的に分析することを試みる。

2. 資料と手順

『大辞林』には、紙に印刷・製本されたものの他に、光ディスクを媒体とした「CD-ROM版」と「電子ブック版」が公刊されている。ここでは、電子ブック版の『大辞林』をもとに、そこに採録されている見出し語と、アクセントの型を電子テキストの形で抽出し、分類、計算、および分析を行う。

『電子ブック版 大辞林』の光ディスクに記録されているデータは、テキスト・ファイル形式ではないのでパソコン上で直接読んだり検索したりすることはできない。作業の手順の第1は、こうしたデータを、パソコン上で直接利用できるようにテキスト・ファイルとして取り出すことであった。これには、EB.EXEという電子ブック検索プログラム(志村拓氏の作製によるMS-DOS用のフリー・ソフトウェア)を利用した。

まず、『大辞林』の中から「慣用句・ことわざの類」を除き、「あ」から「ん」までのすべての見出し語と本文をテキスト・ファイルとして抽出した。(「慣用句・ことわざの類」というのは、見出し語に関連した成句であり、これらにアクセントの表記は付されていないので、あらかじめ除外した。)この作業によって得られたテキスト・ファイルの容量

表1. 日本語のアクセントの型 (『大辞林』の「凡例」より一部簡略化した)

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
|-----|-----------|--------------|-------------|-----------|------------|-------------------|
| 一拍語 | ナ名 | キ木 | | | | |
| 二拍語 | ミズ水 | アキ秋 | ハナ花 | | | |
| 三拍語 | カイシャ会社 | デンキ電気 | オカシお菓子 | オトコ男 | | |
| 四拍語 | ダイガク大学 | ブンガク文学 | ユキグニ雪国 | サイジキ歳時記 | オトオト弟 | |
| 五拍語 | チュウゴクゴ中国語 | シャアベットシャーベット | フキュウリツ普及率 | ヤマノボリ山登り | コガタバス小型バス | モモノハナ桃の花 |
| 六拍語 | ケンブツニン見物人 | ケンモホロロけんもほろろ | オマワリサンお巡りさん | キンコンシキ金婚式 | コクゴジテン国語辞典 | タンサンガス炭酸ガス 十一月 |

は総計 28,180,284 バイトであった。

さらに、これを用いて、『大辞林』に含まれる「見出し語」の数を計算したところ、18万5,269語であった。「凡例」によれば『大辞林』の収録語数は「約22万語」とあるが、これは先の「慣用句・ことわざの類」を含む数字であると考えられる。

ところで、『大辞林』では見出し語のすべてにアクセントの型が付されているわけではない。「凡例」によれば、「方言、古語、人名・地名・作品名などのいわゆる固有名詞、仏教その他特殊な専門分野の用語、および付属語」には原則としてアクセントが記されていない。また「2語以上の要素からなる語で1語化の度合いが薄く、それぞれの構成要素のアクセントから類推できると思われる語」にもアクセントは付されていない。

そこで、手順の第2として、本文から、アクセントの記載のある見出し語だけを選び分ける作業を行った。ここで得られた見出し語の数は、総計 14万756語であった。これがすなわち、分析の対象となる基礎データにほかならない。

手順の第3として行うべき作業は、上で得られた基礎的なデータを拍数ごとに分類することである。すべての見出し語の拍数を計算して、1拍語、2拍語、3拍語、4拍語、...と、それぞれ別のファイルに書き出した。「拍」がかな1文字と一致しないのは、小さいかなが現れる場合に限られるので、小さい「あいうえおやゆよアイウエオヤユヨ」を無視して文字数を計算することによってその単語の拍数を得ることができる。

アクセント表記のある見出し語 14万756語を拍数によって分類すると、次のようになる。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 1拍語 | 391 | 11拍語 | 403 |
| 2拍語 | 5,847 | 12拍語 | 216 |
| 3拍語 | 27,660 | 13拍語 | 85 |
| 4拍語 | 49,661 | 14拍語 | 39 |
| 5拍語 | 22,156 | 15拍語 | 29 |
| 6拍語 | 17,283 | 16拍語 | 11 |
| 7拍語 | 9,169 | 17拍語 | 3 |
| 8拍語 | 5,238 | 18拍語 | 3 |
| 9拍語 | 1,612 | 19拍語 | 5 |
| 10拍語 | 944 | 20拍語 | 1 |

アクセントが付されている見出し語のうち、もっとも拍数が多いものは20拍語(1語)であり、以下19拍~1拍まで、すべての拍数の語が存在する。もっとも多くの語数が集まっているのは4拍語で、5万語弱(49,661語)である。

アクセントの表記をもつ16拍以上の単語を表2に掲げておく。すべて名詞である。

手順の第4としては、1拍~20拍のそれぞれの語の中で、どのようなアクセントの型がそれぞれいくつあるかを計算する。その際、アクセントの型の数え方として次のような基準を設けた。

(1) 2語以上の要素からなる複合語で、アクセントの単位が2つ以上に分かれるものは、あらかじめ計算の対象から除外する。たとえば、

しょし・ひゃっか【諸子百家】 [1] - [1]
あい・つとめる【相勤める】 [1] - [3]

表2. 『大辞林』のうちアクセント表記のある16拍以上の見出し語(全部)

16拍語(11語):

- アルキルベンゼンスルホンさんえん【一酸塩】 [13]
- インダストリアルエンジニアリング【industrial engineering】 [12]
- おうだんしゅっけつレプトスピラしょう【黄疸出血一症】 [5] - [6]
- オリンピックとうききょうぎたいかい【一冬季競技大会】 [4] - [7]
- カセグレンしきはんしゃぼうえんきょう【一式反射望遠鏡】 [0] - [0]
- ぐんぶだいじんげんえきぶかんせい【軍部大臣現役武官制】 [4] - [0]
- しせきめいしょうてんねんきねんぶつ【史跡名勝天然記念物】 [13]
- せいじんティーさいぼうはっけつびょう【成人T細胞白血病】 [7] - [0]
- どういつろうどうどういつちんぎん【同一労働同一賃金】 [5] - [5]
- メガントロプスパラエオヤワニクス【Meganthropus palaeojavanicus】 [5] - [7]
- りゅうこうせいのうせきずいまくえん【流行性脳脊髄膜炎】 [0] - [8]

17拍語(3語):

- げんかいこうようていげんのほうそく【限界効用遞減の法則】 [5] - [0]
- こくえいきぎょうろうどうかんけいほう【国営企業労働関係法】 [5] - [0]
- さいこうはっこうがくせいげんせいど【最高発行額制限制度】 [7] - [5]

18拍語(3語):

- こくみんせいしんそうどういんうんどう【国民精神総動員運動】 [5] - [7]
- せいぶつかがくてきさんそようきゅうりょう【生物化学的酸素要求量】 [0] - [6]
- ほうしゃせいたんそねんだいそくていほう【放射性炭素年代測定法】 [6] - [0]

19拍語(5語):

- げんぱつせいめんえきふぜんしょうこうぐん【原発性免疫不全症候群】 [0] - [10]
- こうつうじけんそっけつさいばんてつづき【交通事件即決裁判手続】 [5] - [10]
- こうてんせいめんえきふぜんしょうこうぐん【後天性免疫不全症候群】 [16]
- じどうしゃそんがいばいしょうせきにんほけん【自動車損害賠償責任保険】 [2] - [13]
- そうじょうがんどりゅうかてっこうこうしょう【層状含銅硫化鉄鉱床】 [16]

20拍語(1語):

- りゅうぐうのおとひめのもとゆいのみきはずし*)【竜宮の乙姫の元結の切り外し】 [3] - [2] - [3] - [0]

*)「アマモ(甘藷)」の異名

の類である。なお、

つうかぎぞうざい【通貨偽造罪】 [1] - [2] [5]
 のような表記の場合、つうか・きぞうざい [1] - [2]
 と、つうかぎぞうざい [5] の2通りのアクセントが
 あるので、[1] - [2] の型は無視して、[5] の型
 だけを計算の対象とする。

(2)ひとつの見出し語に2つ以上のアクセントの型
 が示されている場合には、それぞれをひとつと数え
 る。たとえば、

あおまめ【青豆】 [0] [2]
 の場合、あおまめ [0] と、あおまめ [2] の両方の
 アクセントを持つものとして [0] の型と [2] の型
 の両方に算定する。

こうした手順によって品詞ごとのデータを分析し、

アクセントの型の分布にどのような特徴が認められ
 るかを調査した。

3. 品詞別のアクセントの型の分布

『大辞林』には、(動)(形)(副)(形動)等
 の略号によって見出し語の品詞が示されているが、
 名詞には原則として品詞の表示が省略されている。
 これをもとにして、本文のテキスト・ファイルから、
 名詞(品詞の記載がないもの)、動詞、形容詞を選
 り分けた。以下では、形容詞、動詞、名詞の順に分
 析の結果を見ていくことにする。

(1)形容詞のアクセントの型の分布

本文から抽出した形容詞は総計 968 語であった。

表3-1. 形容詞のアクセントの型の分布 (語数)

| 型 → | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 合計 |
|-----|----|---|----|-----|-----|-----|----|---|---|---|-----|
| 2拍語 | 0 | 6 | 0 | | | | | | | | 6 |
| 3拍語 | 24 | 1 | 94 | 0 | | | | | | | 119 |
| 4拍語 | 55 | 3 | 2 | 205 | 0 | | | | | | 265 |
| 5拍語 | 25 | 2 | 0 | 4 | 283 | 0 | | | | | 314 |
| 6拍語 | 30 | 3 | 0 | 0 | 3 | 253 | 0 | | | | 289 |
| 7拍語 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 90 | 0 | | | 96 |
| 8拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | | 8 |
| 9拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |

表3-2. 形容詞のアクセントの型の分布 (百分率)

| 型 → | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|-----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|---|
| 2拍語 | 0 | 100 | 0 | | | | | | | |
| 3拍語 | 20 | 1 | 79 | 0 | | | | | | |
| 4拍語 | 21 | 1 | 1 | 77 | 0 | | | | | |
| 5拍語 | 8 | 1 | 0 | 1 | 90 | 0 | | | | |
| 6拍語 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 88 | 0 | | | |
| 7拍語 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 94 | 0 | | |
| 8拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | |
| 9拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |

これらを拍数によって分類すると、次ように2拍から9拍までの語に分かれる。

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 2拍語 | 6 | 6拍語 | 254 |
| 3拍語 | 104 | 7拍語 | 90 |
| 4拍語 | 216 | 8拍語 | 8 |
| 5拍語 | 288 | 9拍語 | 2 |

これらのうち、

あい・ひとしい【相等しい】 [1] - [3]

のような、複合語のそれぞれの構成要素のアクセントを保持しているものは除外し、

あかるい【明るい】 [0] [3]

のように、2つ(以上の)アクセントを持つものはそれぞれのアクセントを持つものとした上で、拍数ごとのアクセントの型を計算した。その結果が、表3-1(語数)および表3-2(百分率)である。

2つの表から、形容詞のアクセントの型は極めて偏

った分布をしていることが分かる。最も目立った特徴として、次の2点を指摘することができる。

(a)形容詞は、どのような拍数の語であっても語末から2つ目の拍にアクセントの「滝」をもつものが圧倒的に多い。3拍・4拍語では8割近くが、その他の拍数の語では約9割以上がこの型に含まれる。

(b)上の型に当てはまらないもののほとんどは、アクセントの「滝」をもたない型(「0」)である。アクセントの「滝」をもたない型は3拍語と4拍語に比較的多く、全体の約2割を占める。5拍語と6拍語では、この型は全体の約1割を占める。

(a)と(b)以外の型は、0~3%と極端に少ない。

2拍~9拍のすべての形容詞に付されたアクセントの型は、のべ1,099である。このうち、語末から2つめの拍にアクセントの「滝」をもつものは941語すなわち85.6%にのぼる。また、アクセントの「滝」をもたないものは137語すなわち12.5%であり、それ以

表4-1. 動詞のアクセントの型の分布 (語数)

| 型 → | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|----|---|------|
| 2拍語 | 115 | 175 | 12 | | | | | | 302 |
| 3拍語 | 407 | 36 | 904 | 4 | | | | | 1351 |
| 4拍語 | 920 | 23 | 23 | 1931 | 0 | | | | 2897 |
| 5拍語 | 903 | 10 | 12 | 124 | 1920 | 0 | | | 2969 |
| 6拍語 | 252 | 12 | 12 | 3 | 13 | 628 | 0 | | 920 |
| 7拍語 | 28 | 0 | 4 | 5 | 2 | 16 | 91 | 0 | 146 |

表4-2. 動詞のアクセントの型の分布 (百分率)

| 型 → | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 2拍語 | 38 | 58 | 4 | | | | | |
| 3拍語 | 30 | 3 | 67 | 0 | | | | |
| 4拍語 | 32 | 1 | 1 | 67 | 0 | | | |
| 5拍語 | 30 | 0 | 0 | 4 | 65 | 0 | | |
| 6拍語 | 27 | 1 | 1 | 0 | 1 | 68 | 0 | |
| 7拍語 | 19 | 0 | 3 | 3 | 1 | 11 | 62 | 0 |

外のアクセントの型をもつものはすべて合わせても21語すなわち1.9%にすぎない。

例外的なアクセントをもつ形容詞についての検討は省略するが、ただ、それらの大部分は古語あるいは複合語でもとの要素のアクセントを保持しているもののいずれかであること、また、それらにしても例外的なアクセントと合わせて、語末から2拍目にアクセントの「滝」を持つことを指摘しておきたい。

(2)動詞のアクセントの型の分布

電子ブック版『大辞林』の本文から抽出した動詞は総計6,606語である。これらを、拍数に応じて分類すると、2拍から7拍の語に分かれる。(1拍、および8拍以上の動詞は存在しない。)その内訳は、次の通りである。

| 2拍語 | 3拍語 | 4拍語 | 5拍語 | 6拍語 | 7拍語 |
|-----|-------|-------|-------|-----|-----|
| 281 | 1,227 | 2,230 | 2,090 | 669 | 109 |

これらのうち、

あい・はんする【相反する】 [1] - [3]

のような、複合語の構成要素それぞれのアクセント

を保持しているものは計算から除外し、

あおぎたてる【扇ぎ立てる・煽ぎ立てる】 [5] [0] のように、2つ(以上の)アクセントが示されているものはそれぞれのアクセントを持つものとして数え、それぞれの拍数におけるアクセントの型の分布を求めた結果が、表4-1(語数)および表4-2(百分率)である。

表では、動詞のアクセントの型が形容詞とよく似た分布をしていることが見て取れる。表4-2から明らかかなように、動詞のアクセントは、いずれの拍数においても

- (a)語末から2拍目にアクセントの「滝」をもつもの
 - (b)アクセントの「滝」をもたないもの
- の2種類に大別される。

それぞれの拍数において(a)と(b)が全体に占める割合と、その合計を(c)として次に掲げる。

| | 2拍語 | 3拍語 | 4拍語 | 5拍語 | 6拍語 | 7拍語 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (a) | 58 | 67 | 67 | 65 | 68 | 62 |
| (b) | 38 | 30 | 32 | 30 | 27 | 19 |
| (c) | 96 | 97 | 99 | 95 | 95 | 81 |

表5-1. 名詞のアクセントの型の分布 (語数)

| 型→ | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 合計 |
|-------|-------|-------|------|-------|------|------|------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|
| 1 拍語 | 82 | 320 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 402 |
| 2 拍語 | 665 | 4304 | 802 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5771 |
| 3 拍語 | 14038 | 11970 | 1625 | 1120 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 28753 |
| 4 拍語 | 35988 | 3718 | 6076 | 3101 | 1007 | | | | | | | | | | | | | | | | | 49890 |
| 5 拍語 | 5033 | 518 | 2358 | 11285 | 1682 | 336 | | | | | | | | | | | | | | | | 21212 |
| 6 拍語 | 3153 | 290 | 180 | 5478 | 6597 | 1239 | 132 | | | | | | | | | | | | | | | 17069 |
| 7 拍語 | 513 | 291 | 52 | 58 | 2778 | 5081 | 436 | 17 | | | | | | | | | | | | | | 9226 |
| 8 拍語 | 509 | 61 | 19 | 17 | 71 | 3348 | 1129 | 164 | 25 | | | | | | | | | | | | | 5343 |
| 9 拍語 | 246 | 16 | 2 | 3 | 4 | 55 | 586 | 641 | 81 | 27 | | | | | | | | | | | | 1661 |
| 10 拍語 | 165 | 4 | 1 | 2 | 1 | 8 | 23 | 424 | 310 | 34 | 2 | | | | | | | | | | | 974 |
| 11 拍語 | 35 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 8 | 172 | 161 | 20 | 1 | | | | | | | | | | 400 |
| 12 拍語 | 19 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 9 | 111 | 54 | 4 | 0 | | | | | | | | | 203 |
| 13 拍語 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 38 | 22 | 3 | 0 | | | | | | | | 74 |
| 14 拍語 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 20 | 9 | 1 | 0 | | | | | | | 34 |
| 15 拍語 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 4 | 0 | 0 | | | | | | 21 |
| 16 拍語 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | | | | | 5 |
| 17 拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | 0 |
| 18 拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 0 |
| 19 拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | | 2 |
| 20 拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

2～6拍の動詞では、(a)と(b)だけで全体の9割以上を占め、7拍語でも8割以上にのぼっていることが分かる。

これを全体としてみると、2拍から7拍までのすべての動詞に付されたアクセントの型は、のべ8,585である。このうち、(a)の型をもつものは5,649語すなわち65.8%を、(b)の型をもつものは2,625語すなわち30.6%を占め、両者の合計は96.4%に達する。(a)と(b)以外の型に属する動詞は311語すなわち3.6%にすぎない。

(3)名詞のアクセントの型の分布

『電子ブック版 大辞林』から抽出した、「アクセントの表記のある名詞」は総計128,994語であった。これはアクセントの表記のある見出し語の全体の、91.6%にあたる。

これらのうち、

あきの・ななくさ【秋の七草】[1] - [2]

のような、複合語の構成要素それぞれのアクセント

を保持しているものは計算の対象から除外し、

あさいち【朝市】[2] [3]

のように、2つ(以上の)アクセントを持つものはそれぞれのアクセントを持つものとして数えて、それぞれの拍数の語におけるアクセントの型の分布を求めた結果が、表5-1(語数)および表5-2(百分率)である。

表から、次のような点を指摘することができる。

- (1) 1拍語では、[1]型が多い([0]型の約4倍)。
- (2) 2拍語も、[1]型が多い([0]型と[2]型の5～6倍)。
- (3) 3拍語では、[0]型(全体の5割弱)と[1]型(4割強)が多い。
- (4) 4拍語では、圧倒的に[0]型が多い(全体の7割強)。
- (5) 5拍語以上の名詞では語末から数えて3拍目と4拍目にアクセントの[滝]をもつものが多い。

これを具体的な数字でみることにする。5拍以上のすべての名詞に付されたアクセントの型は、のべ

表5-2. 名詞のアクセントの型の分布 (百分率)

| 型 → | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|---|
| 1拍語 | 20 | 80 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2拍語 | 12 | 75 | 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3拍語 | 49 | 42 | 6 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4拍語 | 72 | 7 | 12 | 6 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5拍語 | 24 | 2 | 11 | 53 | 8 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6拍語 | 18 | 2 | 1 | 32 | 39 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7拍語 | 6 | 3 | 1 | 1 | 30 | 55 | 5 | 0 | | | | | | | | | | | | | | |
| 8拍語 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 63 | 21 | 3 | 0 | | | | | | | | | | | | | |
| 9拍語 | 15 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 35 | 39 | 5 | 2 | | | | | | | | | | | | |
| 10拍語 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 44 | 32 | 3 | 0 | | | | | | | | | | | |
| 11拍語 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 42 | 40 | 5 | 0 | | | | | | | | | | |
| 12拍語 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 55 | 27 | 2 | 0 | | | | | | | | | |
| 13拍語 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 51 | 30 | 4 | 0 | | | | | | | | |
| 14拍語 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 59 | 26 | 3 | 0 | | | | | | | |
| 15拍語 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 71 | 19 | 0 | 0 | | | | | | |
| 16拍語 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 40 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| 17拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 18拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 19拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| 20拍語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

数で56,224語である。このうち、
 (a)語末から3拍目にアクセントの「滝」をもつものは25,293語すなわち45.0%、
 (b)語末から4拍目にアクセントの「滝」をもつものは15,332語すなわち27.3%、
 (c)アクセントの「滝」をもたないものは、9,683語すなわち17.2%である。

上の(a)~(c)の型の合計は89.5%である。つまり全体の約9割がこれらによって占められており、これ以外の型は全部合わせてもようやく全体の約1割にすぎない。

ところで、5拍以上の拍数の名詞において、アクセントの「滝」が語末から3拍目と4拍目という2つの拍に分かれて存在するというのは、どのような理由によるのであろうか？それを明らかにするために、次のような観点を取り入れて分析を進めてみたい。それは、アクセントの「滝」は、「撥音(はねる音「ン」)」「促音(つまる音「ッ」)」「長音(のばす音「ー」)」といったいわゆる「特殊拍」

に現れることが極めて稀であって、アクセントの「滝」はこれらの拍を避ける傾向があるという事実である。

たとえば、学問領域を表す「歴史学、考古学、心理学、教育学、動物学、民族学、言語学」等々の「〜学(ガク)」のつく名詞は、一般に「学」の前につく名詞の最後の拍にアクセントの「滝」を持つのが通例であるが、そこに撥音、長音、および二重母音相当の拍がある場合、アクセントの「滝」はそれらを避ける形でそのひとつ前の拍に現れる。

次に具体的な例を示す(アクセントの「滝」のある拍をゴシック体で示す。)

A. 規則的な例(「ガク」の直前の拍にアクセントの「滝」がある)：

- レキシガク(歴史学)
- コウコガク(考古学)
- シンリガク(心理学)
- キョーイクガク(教育学)
- ミンゾクガク(民族学)

ゲンゴガク（言語学）

etc.

B. アクセントの「滝」がひとつ前にずれる例：

1) 「ガク」の前に撥音がある場合：

ブンケンガク（文献学）

ジシシガク（地震学）

etc.

2) 「ガク」の前に長音がある場合：

オンセーガク（音声学）^{*}

トーケーガク（統計学）^{*}

シューキョーガク（宗教学）

オンキョーガク（音響学）

ケーザイガク（経済学）

シャカイガク（社会学）

etc.

ることが推定できる。

上の例は、いわゆる「複合名詞」においてアクセントの型が形成される典型的なパターンのひとつであるが、アクセントの「滝」が語の終わりから3拍目と4拍目にきていることは、先に見た名詞のアクセントの「滝」の分布に重なるものとして示唆的である。つまり、5拍以上の名詞で語末から3拍目と4拍目にアクセントの「滝」をもつものには、これらと同様の条件にあるものが少なからず含まれている。

問題は、それを数字の上で確認できるかどうか、確認できるとすればそれがどの程度の割合を占めているかということである。そこで、終わりから4拍目にアクセントの「滝」がある語であって、同時に終わりから3拍目に「撥音」「促音」「長音」「二重母音相当」をもつものがどれくらい含まれているかを調査してみる。手順としては、終わりから4拍目にアクセントの「滝」がある語の中から次の条件に合うものを抽出する作業を行うことになる。長音に関しては、カタカナ表記の外来語では長音符号で表記することが多いが、それ以外の和語・漢語では長音符号を用いないので、これを別々に分けて処理する必要がある。

(ア) 語末から3拍目に次のような拍があるもの：

撥音（ん、ン）

促音（っ、ッ）

長音符号で表記される長音（ー）

(イ) 終わりから4拍目と3拍目が、次のような連続をもつ長音：

* 「エ段音」+イの連続は、長音とも二重母音としても現れる。

「お段」（おこそぞ etc.）+「お」

「お段」（おこそぞ etc.）+「う」

「う段」（うくぐすず etc.）+「う」

「え段」（えげげせぜ etc.）+「い」

(ウ) 終わりから4拍目と3拍目が、次のような連続をもつ二重母音相当拍。

「あ段」（あかがさざ etc.）+「い」

5拍以上の拍数の語において、語末から4拍目にアクセントの「滝」があるものは総計 15,332 語であるが、そのうち上の(ア)~(ウ)の条件のいずれかに当てはまるものを合計すると 12,233 語である。これは、語末から4拍目にアクセントの「滝」があるもの全体の 79.8% に及ぶ。

これらは、上のような撥音、促音、長音、二重母音といった拍が存在するためにアクセントの「滝」の位置がひとつ前にずれたもので、語末から3拍目にアクセントの「滝」があるものの特殊な現れとみなすことができる。そこで、これらを語末から3拍目にアクセントの「滝」をもつ名詞（25,293 語）と合わせて考えると、その和は 37,526 となり、これは5拍以上の名詞の延べ数（56,224 語）の 66.7% に達する。これと、アクセントの「滝」をもたないもの（9,683 語すなわち 17.2%）とを合わせると 83.9% である。

こうしたことがらを考慮に入れた上で、5拍以上の名詞のアクセントの型を全体的に見れば、語末から3拍目にアクセントの「滝」をもつ語が全体の約 7 割弱、アクセントの「滝」をもたない語が全体の約 2 割弱を占めているとすることができる。

4. 小結論

『電子ブック版 大辞林』の見出し語のうち、アクセントのついている 140,756 語について、それらを品詞ごとに分類して形容詞、動詞、名詞のアクセントの型の分布をみてきた。

ここでは、電子ブックに記録されているデータをそのまま基本データとして用いているので、印刷された『大辞林』を入力する際に生じたかも知れない誤記等については、校訂を加えていない。さらに、辞典の記述をそのまま現実の反映とみなすことができるかどうか、つまり辞典のアクセント表記が適切か否か、という点についても一切の批判は行っていない。しかしながら、『大辞林』まるごと一冊の見

出し語を対象として扱う今回のようなやり方においては、たとえ上のような誤差があったにしても、許容の範囲内に収まるであろうと考えている。

「2通りのアクセントを持つ語は、2つの別のアクセントを持つものとして数える」というやり方によって、『大辞林』に記載されているアクセントを余すところ無く取り上げ、「現代日本語の語彙」を全体としてとらえた場合の、アクセントの型の分布の傾向とそれらの割合を計算することができた。

いささか単純化した形であるが、次にその結果をまとめてみたい。

1. 形容詞

2拍から9拍までのすべての形容詞(1,099語)の中で、語末から2拍目にアクセントの「滝」をもつものは85%にのぼる。また、アクセントの「滝」をもたないものは13%であり、これら以外のアクセントの型はすべて合わせても2%にすぎない。

2. 動詞

2拍～7拍までのすべての動詞(8,585語)の中で、語末から2拍目にアクセントの「滝」をもつものは65%ある。また、アクセントの「滝」をもたないものは31%であり、それ以外のアクセントの型をもつ動詞は全体の4%にすぎない。

3. 名詞

1拍～20拍のすべての名詞(141,040語)の中では、拍数によって次のような分布が顕著である。

(1) 1拍語と2拍語では、第1拍にアクセントの「滝」もつものだけで全体の75%を占める。

(2) 3拍語と4拍語では、アクセントの「滝」をもたないものだけで全体の64%に達する(4拍語だけでは72%)。

(3) 5拍以上の名詞では、語末から数えて3拍目にアクセントの「滝」をもつものと、語末から3拍目に撥音、促音、長音、二重母音といった特殊拍があるためにアクセントの「滝」が語末から4拍目にずれているものを合わせたものが全体の67%ある。また、アクセントの「滝」をもたないものは17%あり、両者の合計は84%に達する。

* * *

5拍以上の名詞のアクセントの型の分布を検討し

た際に、複合名詞におけるアクセント形成のパターンについて言及した。複合名詞では、後に来る名詞の違いによって、次のように大きく2種類のアクセントのタイプがあると指摘されている。^{*}

A型—後に来る名詞の第1拍にアクセントの「滝」が来る。例：

アソビ(遊び) + アイテ(相手) → アソビアイテ

B型—前に来る名詞の最終拍にアクセントの「滝」が来る。例：

セイフ(政府) + アン(案) → セイフアン

(本文中で検討したのは、このB型である。)

純粹に可能性だけを考えれば、前に来る名詞にしても後に来る名詞にしても、様々な拍数の語がありうるわけであり、それによってアクセントの型にも非常なばらつきが予想される。それにも関わらず、5拍以上の名詞(大部分が複合名詞と予想される)のべ56,224語のうち67%が語末から3拍目にアクセントの「滝」をもつか、語末から3拍目に特殊拍を持ちかつ語末から4拍目にアクセントの「滝」をもつものによって占められている。こうした事実を目の当たりにすれば、様々な拍数の組み合わせによって複合名詞が形成され・使用され・定着していく過程において、アクセントの「滝」が「語末から3拍目」にある構造からはずれるものは淘汰され、これに合致するものは生産的に増殖されるといったベクトルが作用していると考えざるを得ない。

(1996.3.9)

[資料]

- ・松村明編『大辞林』三省堂, 1988.
- ・『大辞林 CD-ROM 版』三省堂, 発売元: 日本電気ホームエレクトロニクス(株), 1993.
- ・『電子ブック版大辞林』三省堂, 1992.

[付記] 本稿では取り上げることのできなかった形容詞と動詞の例外的なアクセントの検討については次の拙論を参照していただければ幸いである。栗林均「現代日本語のアクセントの型の分布—『電子ブック版 大辞林』を資料として—」『日本大学人文科学研究所紀要』第51号, 1996年3月, 1-28頁。

* NHK編『日本語発音アクセント辞典』(改訂新版), 日本出版協会, 1985.